

西中われら



学校の教育目標：自ら学ぶ 共に生きる 努力一輪 4本柱：授業、挨拶、掃除、合唱

啐啄（そったく）同時

校長 細井 孝治

西中学校の校舎や体育館の壁面に、ツバメが巣作りをしています。例年の光景だと思いますが、いつもと変わらない自然の光景にほっとしている自分がいます。「ツバメが巣をつくった家には幸福が訪れる」と言われ、ツバメは「幸せの象徴」として知られています。泥や枯草、時には糞害もあって大変ですが、「幸福が訪れる」と信じてしばらく我慢するしかありません。

さて、「啐啄同時」という禅の言葉があります。「啐」は、雛が卵から生まれ出ようとするとき、殻の中から卵の殻をつついて音をたてること、「啄」は、すかさず親鳥が外から殻をついばんで破ることを言います。そしてこの「啐」と「啄」が同時であってはじめて、殻が破れて雛が生まれるわけです。この親子の動きが一致したときの絶妙のタイミングを表す言葉が「啐啄同時」です。これは鳥に限らず、親と子、教師と生徒の関係にも学ぶべき大切な言葉であると思います。

雛は自分のくちばしで卵の殻をつつき、生まれてきます。少しずつ時間をかけて自分で自分の殻を割っていくのです。親は子どものペースに合わせて、それを応援する意味で、外から殻をつついてやる。雛がまだつつこうとしていないのに、親が先につついて殻を破ってしまえば、雛は生まれてきません。その逆で、雛が卵の殻を懸命につついていっているのに、それを放置していても結果は同じです。つまり、子どもが「出よう」としている時を見計らって、親（教師）がサポートする。そのタイミングが大事だということです。

そんな偉そうなことを書いていながら、私自身、親として教師として、今思い起こすと反省すべきことが多くあります。子どもたちの「変わりたい」「成長したい」というサインをきちんと受け止めていただろうか、親としての建前や世間体、教師として成果を出したいというエゴ、そんなもののために「啐啄同時」を逃していたのではないかと…。

子どもは一人ひとり違います。その子のペースに合わせて親（教師）も関わる必要があります。また、子どもは本来、自分で伸びていく力を持っています。しかし、関わり方で、その力を伸ばすこともできるし、つぶしてしまうこともあるのです。西中学校では、生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く確かな力を育成していくためにも、機を逃すことなく、必要な働きかけを行っていくよう努めていく所存です。

昼休み、運動場では6月1日（木）に実施される体育大会に向け、各学級が熱心な練習を繰り返しています。運動場いっぱいこだまする生徒たちの声、全力プレー、勝利に向けて心を一つに懸命に取り組む生徒たちの姿は実に頼もしく、心を打ちます。体育大会当日がとても楽しみです！